

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名【新】新たな集材技術導入支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 スマート林業推進係 電話番号：058-272-1111(内3252)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,100 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,100	0	0	0	0	0	0	0	3,100
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林の高齢級化に伴い、森林による二酸化炭素吸収量は減少傾向にある。その減少を抑え、2050年のカーボンニュートラルに貢献するためには、適切な伐採と再生林による森林の若返りを進めることが求められる。

また県内では、既存工場の製造ライン増強や、新たな木質バイオマス発電所の稼働が計画されており、木材需要の更なる増加が見込まれるが、間伐だけで需要に応えることは難しいため、今後、間伐から皆伐へのシフトが進むと考えられる。

路網整備が困難な急傾斜地が約4割を占める本県では、長距離・広範囲の集材が可能な集材機による架線技術は皆伐を進める上で不可欠であるが、県内ではレバー操作が複雑で操作に習熟を要する機械式集材機が利用されている。森林技術者数が伸び悩む中、省力化・効率化・安全性向上が期待できる新たな架線集材技術の普及・定着が急務である。

(2) 事業内容

近年、無線・遠隔操作が可能で安全装置を備えた油圧式集材機が開発された。この油圧式集材機を県がメーカーから借り上げ、林業事業体が皆伐現場で使用し機械操作を体験する。加えて、使用期間中に他の林業事業体向けの研修会を開催し、新たな集材技術の県内への普及・定着による架線集材作業の省力化と安全性向上を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

省力化・効率化・安全性向上が期待できる新たな架線集材技術の導入は、県が目標とする木材65万m³の生産と、人工造林1000haの実現に向けて必要な取り組みであり、県事業として実施するのは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	34	業務旅費
需用費	66	燃料費、消耗品費
委託料	3,000	油圧式集材機借り上げ
合計	3,100	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画（予定）

第2 林業・木材産業の振興

2 DXの推進による林業・木材産業改革

2-2 木材の安定供給と森林所有者への利益還元

(2) 国・他県の状況

機械メーカーが国補助を受け油圧式集材機を開発。実証のための試作機を和歌山県の林業事業体が試験利用中。

(3) 後年度の財政負担

省力化・効率化・安全性向上が期待できる新たな架線集材技術の普及・定着のためには、令和5年度以降も継続が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：省力化・効率化・安全性向上が期待できる新たな架線集材技術の導入は、県が目標とする木材65万m³の生産と、人工造林1000haの実現に向けて必要な取り組みであり、県事業として実施するのは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

省力化・効率化・安全性向上が期待できる新たな集材技術の普及・定着により、第4期岐阜県森林づくり基本計画終了年度の令和8年度に、木材生産量65万m³、木材生産性7.0m³/人日、人工造林面積1000haの実現を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
②油圧式集材機導入台数(台)	0	0	—	0	4	0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)
3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない

(評価)

- ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)
3 : 期待以上の成果あり
2 : 期待どおりの成果あり
1 : 期待どおりの成果が得られていない
0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)

- ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか)
2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

(今後の課題)

- ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

技術者数が伸び悩む中、省力化・効率化・安全性向上に繋がる油圧式集材機による架線集材技術の普及・定着は急務である。

(次年度の方向性)

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

新たな集材技術の普及と合わせ、架線作業技術者の養成を行い、架線集材技術の定着を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など